

八戸市中央卸売市場 青果部 取扱高実績

資料1

1. 取扱高 令和7年1月から10月まで【開市日数206日】

数量: 75,755 t

金額: 20,833,597 千円

令和7年11月10日(月)

八戸市中央卸売市場運営協議会

2. 月別取扱高

区分	単位	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計 (1月~10月)	前年取扱高 (1月~10月)
野菜	数量(t)	3,868	4,293	5,489	5,742	5,268	7,310	8,877	7,177	8,109	10,993			67,126	69,246
	前年比(%)	91.4%	85.2%	96.5%	98.3%	103.3%	97.6%	95.9%	100.5%	107.4%	92.3%			96.9%	
	金額(千円)	1,545,186	1,683,605	1,929,603	1,782,046	1,375,697	1,432,862	1,821,713	1,692,469	1,863,853	2,231,121			17,358,155	15,818,847
	前年比(%)	139.0%	124.4%	119.9%	117.4%	100.0%	110.8%	102.4%	103.3%	102.5%	96.1%			109.7%	
果実	数量(t)	884	926	818	838	670	547	651	1,018	811	1,269			8,432	9,217
	前年比(%)	88.0%	87.0%	81.9%	98.2%	84.1%	86.8%	94.2%	90.8%	86.6%	113.2%			91.5%	
	金額(千円)	368,361	373,755	359,746	340,092	278,216	240,524	347,836	376,330	276,035	402,508			3,363,403	3,411,828
	前年比(%)	112.7%	104.4%	100.3%	100.7%	89.7%	80.9%	112.4%	89.4%	89.6%	104.6%			98.6%	
(野菜・果実加工品、鳥卵、その他)	数量(t)	21	20	30	20	26	20	18	12	12	18			197	227
	前年比(%)	91.3%	71.4%	71.4%	76.9%	86.7%	125.0%	112.5%	85.7%	100.0%	90.0%			86.8%	
	金額(千円)	14,013	15,227	15,227	10,359	12,356	9,101	8,938	7,375	9,007	10,436			112,039	112,484
	前年比(%)	97.2%	87.5%	96.2%	79.4%	102.6%	131.4%	130.3%	79.7%	127.4%	108.3%			99.6%	
合計	数量(t)	4,773	5,239	6,337	6,600	5,964	7,877	9,546	8,207	8,932	12,280			75,755	78,690
	前年比(%)	90.7%	85.5%	94.1%	98.2%	100.6%	96.9%	95.8%	99.2%	105.1%	94.1%			96.3%	
	金額(千円)	1,927,560	2,072,587	2,304,576	2,132,497	1,666,269	1,682,487	2,178,487	2,076,174	2,148,895	2,644,065			20,833,597	19,343,159
	前年比(%)	132.7%	119.9%	116.2%	114.1%	98.2%	105.3%	104.0%	100.4%	100.7%	97.3%			107.7%	

3. 入荷及び価格の状況

〔野菜〕 野菜全体では、1月から10月までの前年比は取扱量で3.1%減、取扱金額で9.7%増となった。

1月から3月上旬頃までは干ばつと低温の影響、4月は日照時間の少ない天候不順、6月は梅雨入りしたものの降水量は少なく、9月まで記録的な猛暑と少雨の傾向であった。

春堀りのごぼうは太物中心の入荷であったが、平年の5割高となった。長いものはC品中心で前年の9割ほどの入荷量で高値で推移した。にんにくはLM中心で、全体的に入荷量が少ないため引き合い強く高値で推移した。人参は県産に生育の遅れがあり、入荷量は前年の7割にとどまった。9月も全国的に気温が高く、台風や前線の影響で九州、北海道で記録的な大雨となった。ごぼうは、5月6月の高温、干ばつの影響により生育不良がみられ数量減となった。トマト、ピーマン、胡瓜、茄子などの果菜類は高温、干ばつの傾向から細物傾向となり、2Lは高値で推移した。菌草類は、気温の低下につれ荷動きが好転した。全般的に高値傾向であった。

〔果実〕 果実全体では、1月から10月までの前年比は取扱量で8.5%減、取扱金額は1.4%減となった。

1月から3月は県内品では苺とりんご、県外品ではみかん、ポンカンなどの柑橘類が主力の販売となった。昨夏の高温、カ梅ムシ等による不作がみられ、数量減の高値が続き荷動きは鈍化した。サンフジの中玉、小玉は堅調であった。4月から5月は県外産、県内産ともに引き続き苺が主力であった。輸入品はニュージーランド産キウイの入荷が始まったが、安値のパイン、バナナ等安価なものが良好な荷動きとなった。6月夜温が高かったため、さくらんぼの色付きが悪く入荷量が半減したが贈答用の引き合いが強まった。山形県産と重なったため、県内での販売がメインとなった。8月は全般的に猛暑の影響が大きく、着色不良、品質低下等で多くの品目に数量減、単価安となった。9月はつがるりんごの着色不良が多く高値で推移した。

八戸市中央卸売市場 花き部 取扱高実績

資料1

1. 取扱高 令和7年1月から10月まで【開市日数204日】

数量: 8,446 千本

金額: 823,488 千円

令和7年11月10日（月）

八戸市中央卸売市場運営協議会

2. 月別取扱高

区分	単位	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計 (1月～10月)	前年取扱高 (1月～10月)
切花	数量(千本)	495	588	1,267	704	676	643	628	1,173	900	562			7,636	8,341
	前年比(%)	82.5%	87.9%	95.0%	91.0%	84.9%	99.5%	81.0%	99.0%	92.7%	94.9%			91.5%	
	金額(千円)	60,241	62,138	121,928	56,781	54,374	52,903	55,447	113,150	89,403	58,945			725,310	783,757
	前年比(%)	110.9%	101.6%	96.8%	87.3%	72.2%	103.0%	82.4%	93.4%	90.5%	93.0%			92.5%	
鉢物	数量(千本)	8	8	11	12	16	8	3	1	3	8			78	80
	前年比(%)	160.0%	80.0%	100.0%	80.0%	114.3%	100.0%	75.0%	100.0%	75.0%	100.0%			97.5%	
	金額(千円)	3,405	3,861	5,321	5,622	7,555	3,595	4,015	1,441	3,314	4,479			42,608	43,834
	前年比(%)	123.1%	85.2%	97.0%	84.4%	101.6%	92.7%	121.8%	67.1%	112.5%	95.6%			97.2%	
その他 (枝物、観葉植物、苗物、植木、加工品、その他)	数量(千本)	23	148	62	123	177	79	28	18	28	46			732	704
	前年比(%)	62.2%	146.5%	80.5%	113.9%	112.7%	111.3%	77.8%	72.0%	71.8%	86.8%			104.0%	
	金額(千円)	2,363	5,454	4,468	10,037	12,862	6,621	3,085	1,980	3,323	5,377			55,570	55,147
	前年比(%)	99.8%	114.3%	116.0%	104.1%	104.9%	103.2%	85.6%	73.7%	89.1%	92.4%			100.8%	
合計	数量(千本)	526	744	1,340	839	869	730	659	1,192	931	616			8,446	9,125
	前年比(%)	81.9%	95.4%	94.3%	93.5%	89.9%	100.7%	80.9%	98.4%	91.8%	94.3%			92.6%	
	金額(千円)	66,009	71,453	131,717	72,440	74,791	63,119	62,547	116,571	96,040	68,801			823,488	882,738
	前年比(%)	111.0%	101.4%	97.4%	89.0%	78.7%	102.3%	84.3%	92.6%	91.1%	93.1%			93.3%	

3. 入荷及び価格の状況

〔切花〕切花全体では、1月から10月までの前年比は取扱量で8.5%減、取扱金額で7.5%減となった。

昨年夏から全国的に流通量が少ない状態が続いている。今年も6月から高温が続いている影響から品質管理が難しく全般的に動きが鈍かった。1月は成人式があり高値で推移した。2月は全国的に流通量が少なく、高値で推移し、輸入品が増えた。3月は春彼岸で前半は引き合いも良く高値で推移したが、中旬より天候不順により本数が伸び悩んだ。4月は国産のバラの出荷量が増え、輸入品は少なくなった。5月は母の日があり国産のカーネーションの生育は順調であったが、引き合いは弱かった。

6月はカーネーションの県南からの出荷が始まり好評であった。8月のお盆需要は、前年並みであった。菊類は暑さの影響から開花遅延など生育に障害が多く入荷量が減少した。9月の秋彼岸は、高温障害による品質の低下から安値傾向であった。露地栽培の品目も同様で丈がとれず、下階級が多く入荷量も減少した。

〔鉢物〕鉢物全体では、1月から10月までの前年比は取扱量で2.5%減、取扱金額は2.8%減となった。

1月、2月は大きめの胡蝶蘭の動きが良く小さめのミディ系は落ち着いていた。3月は卒業式向けのサイネリア、ポリアンの動きが強かった。4月は県産の入荷が増えたが引き合いが弱く単価安となった。胡蝶蘭は5月は安定した入荷で取引されたが6月になると動きは鈍く、9月になると暑さの影響から花落ち枯れなど品質が不安定しなかった。全般的に6月から9月は高温の影響から、品質が安定せず規格外の品も多くなった。